

## いちき串木野市温室効果ガスの排出傾向（2019年度）

本市では、地球温暖化対策の推進に関する法律第21条に基づき、2009（平成21）年度に「いちき串木野市地球温暖化防止活動実行計画」を策定し、市で実施する事務事業について、環境配慮の徹底や温室効果ガスの排出抑制などを図ってきました。

本計画は、そうした前計画を踏まえ、「低炭素社会」を築くため、市が率先して取り組むことが責務であるとの認識のもとに、本市が達成すべき目標を定めたものです。

計画の期間は、2019（平成31）年度から2030年度までの12年とし、達成目標については2013（平成25）年度の実績を基準に設定します。また、概ね5年で本計画の改訂を行います。

これまでの市全体の温室効果ガスの変動を見ると、2019年度は2013年度と比較して、約-11.4%、2016年度と比較して、約-2.0%削減されています。

表1 温室効果ガスの排出傾向と削減目標

項目	2013年度 (基準)	2016年度	2018年度	2019年度	2030年度 (目標)	主な発生源
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	5,792	5,224	5,180	5,112	4,018	電気使用、燃料使用、自動車燃料
メタン (CH <sub>4</sub> )	49	46	47	46	34	自動車走行距離、一般廃棄物焼却量、下水処理量
一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	269	254	260	257	186	
合計	6,109	5,524	5,486	5,415	4,238	
2013年度 (基準円)比	0.0	-9.6	-10.2	-11.4	-31	
2016年度比			-0.7	-2.0		

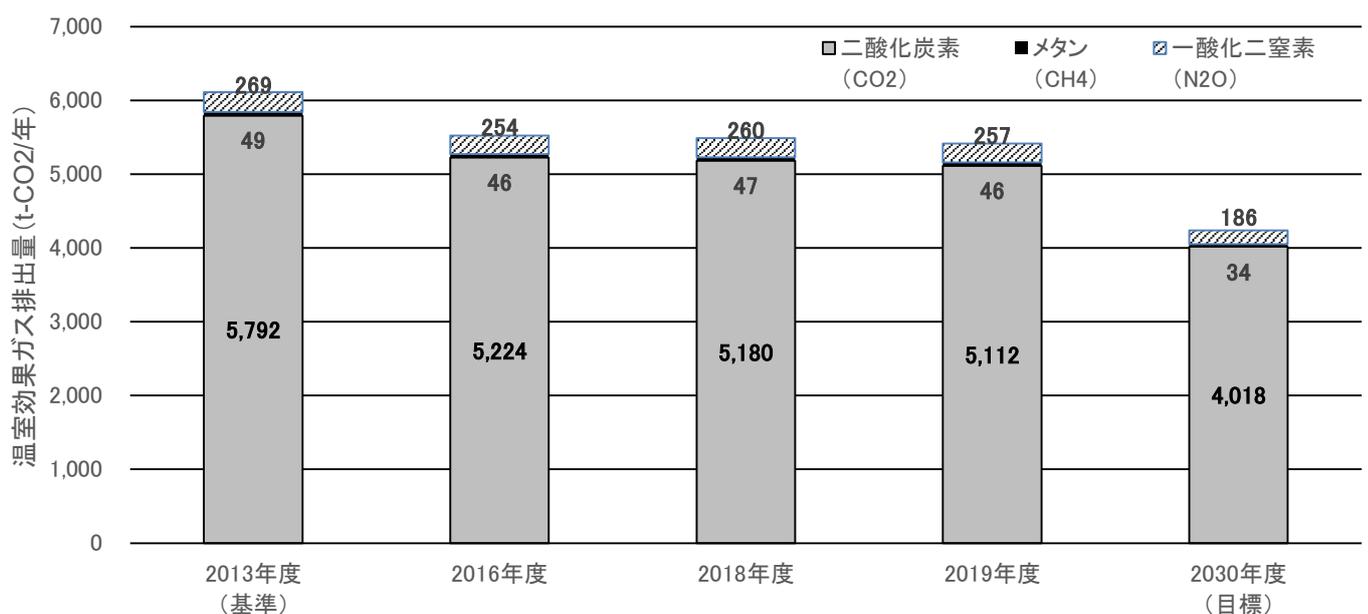


図1 温室効果ガスの傾向と削減目標

## 補足

### (1) 二酸化炭素排出量(CO<sub>2</sub>)

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量は前年度比、約-1.3%削減されています。

この要因は、各施設において灯油とLPGを除く燃料及び電気の使用量が減少したためと考えられます。その中でも、前年度比で大きく減少した燃料は、A重油の約-15.2%でした。

吹上浜荘と市来ふれあい温泉センターの2施設が、2018年度に民間譲渡されたことに加え、2019年度の串木野学校給食センターでのA重油使用量が減少したためと考えられます。

### (2) メタン(CH<sub>4</sub>)・一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)排出量

メタン(CH<sub>4</sub>)排出量は前年度比、約-1.6%、一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)排出量は約-1.2%減少しています。

これは、公用車が1台廃車になったことや、自動車走行距離が約-0.5%、バッチ燃焼式の一般廃棄物焼却量が約-0.9%、下水処理量が約-1.9%と全体的に微減しているためと考えられます。